

**自ら学び続ける児童の育成を目指して
～筋道を立てて考え、表現する力を高める学習指導の工夫～**

有田町立有田中部小学校

1 主題設定の趣旨

本校は、児童数471人、学級数16クラスの中規模校である。世界的にも有名で伝統的な有田焼を主な産業として発展してきた地域で、地域の方々の協力も得ながら、のびのびと学校生活を送っている。素直な児童が多く、与えられた課題に対しては真面目に取り組んでいる。学習面においては、解き方が分かっている問題やパターン化された解法の問題には集中して取り組むことができる。反面、初めて出合う学習課題に対しては、既習事項を使って解こうとしたり、自ら課題を見つけて解決しようとしたりする意欲や主体性がやや不足している。条件に合うものを抽出し、論理的に結びつけて表現する力が未熟である。

また、これまでの全国学力・学習状況調査および佐賀県学力・学習状況調査の結果より、正答率に関しては全国平均とほぼ同程度であるが、「叙述や資料を基に、条件通りに書いたり、自分の考えを添えて表現する」「条件に沿って筋道を立てて考える」問題において個人差が大きい。

今年度より2年間、小中連携による学力向上推進地域指定事業を受けた。有田中学校区内（有田中学校・有田小学校・本校）で学び方や学ぶ習慣を統一し身に付けさせることで、中学校へのスムーズな接続と児童生徒の学ぶ意欲を高めるとともに、「分かった」「できた」という達成感を味わわせることができると考える。

そこで、学力向上推進事業の目的である基礎基本の定着と活用力の向上と対応させながら、表現力を高める学習指導の方法を探る。

小中連携の取り組みとして、『授業づくりのステップ1・2・3 vol.1』『授業づくりのステップ1・2・3 vol.2』を活用して、見通しを持って学ぶ西部型授業スタイルを確立させる。児童が主体的に課題解決に取り組むために必要なめあてを意識して、課題解決に向けて情報を取捨選択し、自分なりの考えを持たせる。その後、ペアやグループでお互いの考えを伝え合うことでより良い解決方法を見つけたり、考えを深めたりすることができる。学習習慣の定着として、これまでも行ってきた「有田ッ子スタイル」を改訂し、三校共通のスタイルとして実施する。さらに、家庭（地域）との連携を図り、家庭学習では発達段階に応じた自主学習を設定し、その内容や取り組み方を検討しながら自ら学ぶ児童の育成を目指す。研究1年目の今年度は、「有田ッ子スタイル」や家庭学習の内容・方法の検討を研究の中心に置き、児童の取り組み方や学習に対する意識を調査しながら進めていく。

このようにして、小中9年間を通して自ら学び続ける児童生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

2 研究の目標

算数科の学習において、ペア・グループ学習を効果的に取り入れ、互いの考えを深め合う言語活動を通して、表現する力を高める学習指導の工夫を探る。

3 研究の仮説

算数の授業においてペア・グループにおける表現活動を取り入れ、自分の考えのみならず、話し合いの中で気付いた見方や考え方、葛藤や対立を「考えを深め合う」という視点で伝え合い、個人や集団の考えを「筋道立った思考」という観点で加除修正したり高めたりする学習を行い、また、表現することの疎外要因を明らかにし、その改善を図れば、表現する力が高まり、自ら学び続けよ

うとする児童が育つであろう。

4 研究の内容と方法

(1) 授業づくりの取り組み

『授業づくりのステップ1・2・3 vol.1』『授業づくりのステップ1・2・3 vol.2』を活用して、確かな学力の定着・向上を図るための授業の工夫、改善に取り組む。

(2) 学習規律を整えるための取り組み

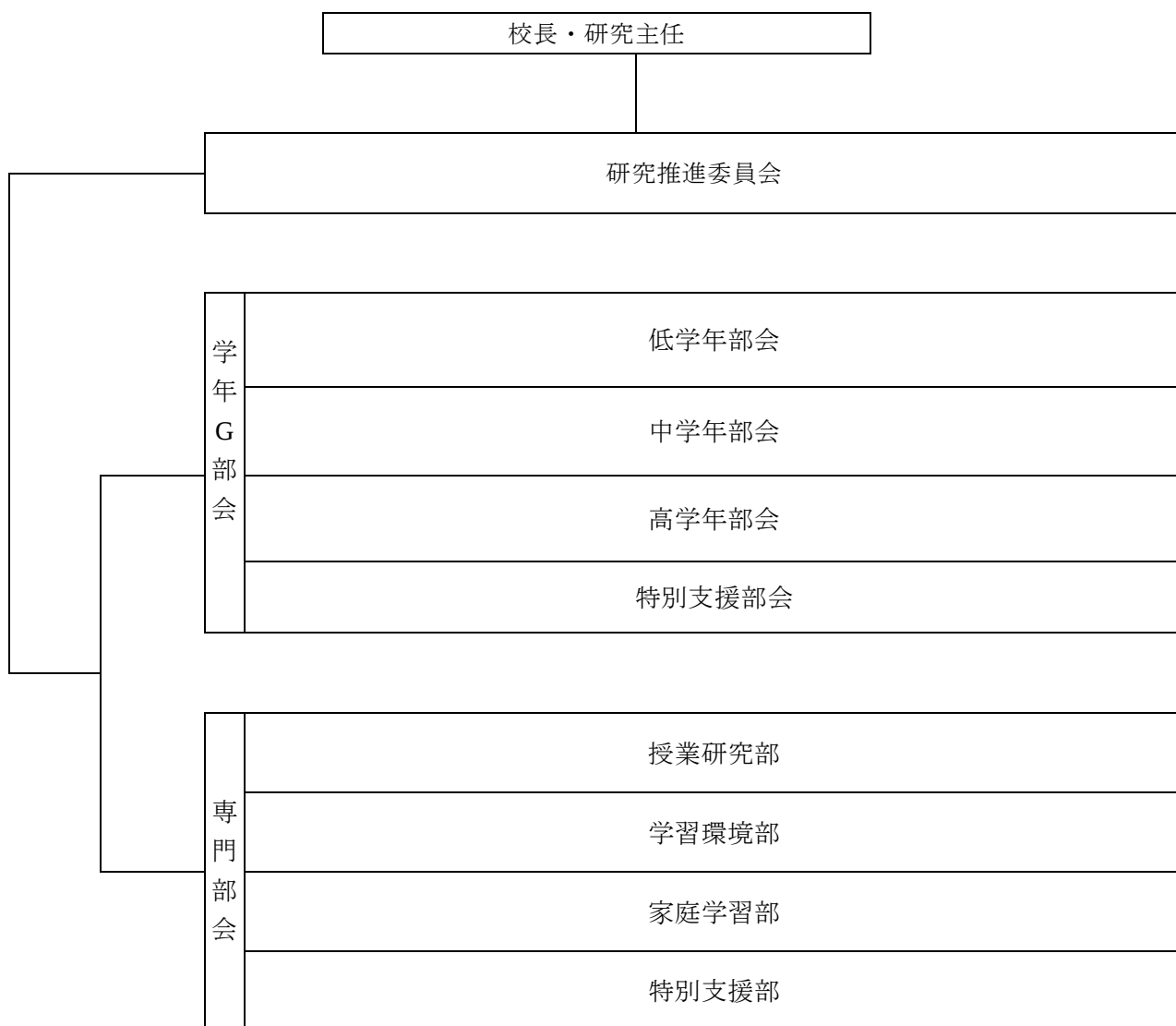
これまでも行われていた「有田っ子スタイル」を改訂、実施するとともに、全職員が共通理解を図って児童の指導に繋げる。

(3) 家庭学習を身につけるための取り組み

発達段階に応じた自主学習のスタイルを提示し、継続して家庭学習に取り組める指導の工夫を図る。

5 研究の実際

(1) 研究の組織



(2) 研究推進委員会

ア 研究の方向性を話し合い、今後の研究推進計画を策定する。

イ メンバー…校長，教頭，主幹教諭，指導教諭，研究主任，研究副主任，学年部会から1名ずつ，各専門部会から1名ずつ(学年部会代表と専門部会代表は兼ねる。)

(3) 学年グループ

ア 低学年部会

イ 中学年部会

ウ 高学年部会

エ 特別支援部会

オ 公開授業は，下学年（1～3年）上学年（4～6年）に分かれ指導案検討会を行い，研究の実際にあわせて，適宜4部会に分かれて研修を行う。

(4) 専門部会

ア 授業研究部…『授業づくりのステップ1・2・3』を基本に，確かな学力の定着・向上を図るために授業の工夫・改善に取り組む。小中共通した授業スタイルを確立させる。

(ア) 指導案形式の検討

(イ) 板書・ノート指導の研究

(ウ) 小中交換授業 など

イ 学習環境部…『有田っ子スタイル』を改定し，学習規律の定着・充実を図る。小中共通した学習規律を確立させる。

(ア) 『有田っ子スタイル』の改定・作成・掲示

(イ) 教室環境開発

(ウ) 教材の整理と保管 など

ウ 家庭学習部…保護者用リーフレット『家庭学習の手引き』を基に家庭学習の定着・充実を図る。家庭学習の習慣化を図り，児童の学ぶ力を育てる。小中共通したスタイルを確立させ，発達段階にあった家庭学習の習慣を積み上げる。

(ア) 『中部小学校家庭学習の手引き』の作成

(イ) 家庭学習について保護者への情報発信

(ウ) 自主学習ノートの校内掲示板作成 など

(5) 研究推進計画・実施報告

日 時	内 容
2019 年 4 月 11 日 (木)	小中連携による学力向上推進地域指定事業にかかる説明会 (教育センター)
5 月 22 日(水)	小中連携による学力向上推進地域指定事業にかかる校区内事業推進委員会
5 月 28 日(火)	研究推進委員会
6 月 4 日(火)	第 1 回校内研
6 月 7 日(金)	低学年グループ研
6 月 17 日(月)	校区内推進委員打合せ
6 月 19 日(水)	小中連携による学力向上推進地域指定事業にかかる校区内事業推進委員会
6 月 21 日(金)	中学年グループ研
7 月 4 日(木)	学力向上推進委員教諭による示範授業
7 月 17 日(水)	第 2 回校内研
7 月 25 日(木)	第 3 回校内研 講師招聘
8 月 21 日(水)	第 4 回校内研 全体研・専門部会
8 月 28 日(水)	三校合同研修会